

常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年10月29日(金)

その3

◇ 白亜の校舎④ 「白亜の校舎をイメージする」

まずは4枚の画像をご覧ください。



【常なる磐 season 1】R2.12.11 発 38号で紹介した
豊郷小学校旧校舎の階段手すり。※所在地：滋賀県犬山郡豊郷町



①同時スタートの両者

②と③カメ(赤矢印→)の視線の先にはウサギ(青矢印→)

④ゴール後のカメ(カメが見下ろす先には、居眠りをするウサギ青矢印→)

ストーリー仕掛けの「ウサギとカメ」である。URL

<https://cms.oklab.ed.jp/el/tokiwahigashi/index.cfm/1,632,c,html/632/20210517-143722.pdf>



国の有形文化財となっている【豊郷小学校旧校舎(現・豊郷町立図書館)】であるが、荘厳な風姿と流麗な佇まい、さらに外観を彩る白壁から「白亜の教育殿堂」と呼ばれた。この校舎イメージ<その①>

「白亜の校舎」夜間イルミネーション。校舎が浮かび上がって見えるのは、白壁あってこそそのライトの効果。<その②>

イメージ<その③>

市内高校の遠景。👉

その校歌の一節。



山は巡りて 情深し
川は流れて 知性あり
ここ岡崎の 丘に建つ
白亜の校舎 我が母校
純美の花は 野に満てり

岡崎の高校といえば、中央部にあるあの高校や、北方の県内有数の敷地面積を誇るあの高校、東方の公・私立の2高校など、高台にある学校が多い。左の校歌の歌詞にも「岡崎の丘に建つ」とある。本校も同様である。

その校歌の一節「**【白亜の校舎】**我が母校」。校舎といえば、「白亜色」なのである。

<おまけ：高校時代の話>

高校生活においても「全校集会」なるものはあった。
定かな記憶ではないが、月に1回ぐらいだったろうか。

校長の話は、正直、「よく覚えている」。本当である。
ただし、高校1年生時のみ。2・3年時の記憶は、全く「記憶になし」である。

理由がある。

1年時の校長は、話が短く、しかも毎回、毎回同じ話。
同じ話といっても、ストーリーではない。

【同じフレーズ】である。

「前振り」や「展開」は少々異なる。けれども、話の締めは、全て同じ。
だから、頭にも、耳にも、記憶にも残る。 そうした話は、ずっと忘れないものだ。

体育大会の校長の話は、驚天動地だった。
「前振り」もない。 あの「フレーズ」だけ。

【青春を謳歌せよ。 終わり。】

直後に、全校生徒から大拍手。 まさにそんな体育大会だった。

【青春を謳歌せよ】。

『 今（高校時代）の この仲間、
今の 恵まれた幸せを
皆で 大いに楽しみ、 大いに喜び合いなさい。 』

皆がそれぞれ送っている それぞれの高校生活を 大切にしなさいということ。
前向きであるとともに、誰もが場面を想像し、思い浮かべることが可能だ。
教員となり、ここが大事だと気付く。

校長の名は、「わたなべ みちお」校長先生
その1年をもって先生は定年退職し、2年時に新校長が着任した。
新校長の名字だけは覚えている。
なぜなら、「前任の校長と同じだった。」ということ。だから「わたなべ」校長先生。

校長の話は「短く、記憶に残り、思考を促すものに」と、自戒するのであった。